

# 比べてみよう！動物の頭骨

清水 海渡（脊椎動物担当）

## 1) はじめに

脊椎動物の特徴の一つに骨格をもつことがあげられます。特に頭骨は、生活様式などのちがいにより多様に形態変化しており、特徴が顕著に出る部位です。今日は脊椎動物の中でも大きく分かりやすい哺乳類の頭骨を比べて観察し、各動物の特徴や生活様式への理解を深めます。

## 2) 頭骨とは

頭骨の定義は「<sup>のう</sup>脳・<sup>ちようき</sup>聴器・<sup>びくう</sup>鼻腔・<sup>こうくう</sup>口腔を含む骨格で、<sup>のうずがい</sup>脳頭蓋と<sup>がんめん</sup>顔面（<sup>ふんぶ</sup>吻部）に大別される。脊椎動物門およびヌタウナギ類がもつ骨であり、脊柱によって支えられる。消化管の入口である「口」を形作り、顔の構造を支持し、脳を外傷から保護するという重要な骨である。」とされています（今泉, 1950）。

すなわち・・・①魚類、両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類がもつ器官。②口を形作るもの⇒食べるものに合わせて変化した。③顔の構造を指示する⇒五感を司る眼、鼻、耳などの重要な感覚器官が位置する・④中枢神経である脳を保護する。の4点になります。

## 3) 紹介する種類

・キクガシラコウモリ・アズマモグラ・アカネズミ・ムササビ・ツキノワグマ・ニホンジカ・ニホンノウサギ・ニホンカモシカ・タヌキ・アナグマ・キツネ・ハクビシン・アライグマ・ヒト（模型）・ニホンザル・カマイルカなど。



## 4) 注目ポイント

- ・頭骨の大きさ：特に全体の大きさ、吻部と脳頭蓋の大きさの比率から顎の筋力、脳の発達がわかる。
- ・歯の本数と形：食べる対象によって歯の形状、大きさ、本数が大きく変化している。

## 5) 頭骨標本の作り方

- ・新鮮な状態であれば煮て肉を取り除き、脂も抜く。
- ・砂場に埋める。
- ・薬品で溶かす（キッチンハイターなど）。
- ・虫に食べさせる（ミルワーム、カツオブシムシ、ハエなど）

参考文献：著：今泉吉典 分類と生態 日本哺乳動物図説 1950年